

<報道資料>

2010年2月15日  
財団法人 東方研究会

財団法人 東方研究会  
西村 玲 研究員が  
日本学術振興会賞・日本学士院学術奨励賞を受賞



当研究会の研究員、西村玲（にしむら・りょう、37歳）が、第6回（平成21年度）日本学術振興会賞を受賞することが去る1月27日に決定いたしました。授賞式は来る3月1日（月）に東京都台東区の日本学士院で行われ、西村研究員は受賞者の中でも特に優れているとして、日本学士院学術奨励賞も併せて受賞しました。

日本学術振興会賞は、日本学術振興会（小野元之理事長）が、将来の学術研究のリーダーとして、後のノーベル賞候補者となるようなフレッシュな研究者をいち早く顕彰することにより、今後の研究にチャンスを与え、ブレークスルーを促すことを目的に設けているもので、今回は江崎玲於奈先生、野依良治先生などにより構成される審査会で、人文・社会系4名、理工系13名、生物系8名の計25名の研究者が受賞者に選ばれました。

受賞理由となった西村研究員の研究は「普寂を中心とする日本近世仏教思想の研究」で、江戸時代の独創的な仏教思想家であり実践者である普寂（ふじゃく、1707—1781）の思想を分析し、「従来の研究では形骸化した思想として軽視されがちであった近世仏教思想に対して、新たな視点からの再評価を行った」ことが高く評価されました。

西村研究員は1972年東京都生まれ。東北大学文学部から同大学院文学研究科に進み、2004年に博士（文学）の学位を取得。同年から財団法人東方研究会の研究員を務めています。専門は日本思想史。同僚の研究員は「お茶目で、気配り上手なチャーミングな女性。彼女の繊細で静かな内面に秘められた意志の強さと探究心が、大きな成果に結びついたと思う」と、このたびの受賞を共に喜んでいきます。

今回、日本学術振興会賞を受賞した25名の研究者の大半は東京大学、京都大学、大阪大学、名古屋大学、九州大学などの教授、准教授らが占めており、私立の財団法人の研究員は西村研究員ただ一人です。

この点について東方研究会の前田専學理事長は「人文系、特に虚学の代表と目されてきた私どものインド学・仏教学の領域では、博士号を持つ優秀な研究者でもなかなか専任職が得られないのが現状です。中村元先生（インド哲学者、仏教学者。東京大学名誉教授、日本学士院会員。1977年に文化勲章受章）が私財をなげうって東方研究会を設立されたの

も、まさにこの問題を解決するためでもありました。当研究会では、1970年に設立以来すでに80余名に上る斯学の若手研究者を育成し、学界に送った実績をもち、現在も10数名の有望な博士研究員を擁しています。当研究会の設立の目的は、若手研究者の育成のみならず、東洋思想の研究とその成果を東方学院などを通じて普及し、社会に還元することにあります。今回の快挙を励みとして、中村先生の遺志を継いで、今後もこれらの諸目的の実現を通じ、最大限公益に資するよう尽力していきたいと考えています」と語っています。

西村研究員の研究は『近世仏教思想の独創—僧侶普寂の思想と実践—』（2008年5月、トランスビュー刊）と題した著書にまとめられています。この中で西村研究員は、日本仏教史研究が古代と中世に傾斜している事実に着目して、近世日本仏教思想史の解明に努め、普寂が近代仏教の思想的先駆者であったことを学問的に明示しました。日本仏教の創造的な時代は中世までで、近世においては墮落と衰退の道をたどったという定説に疑問を投げかけ、普寂が世俗的知識人からの世俗化・非宗教化の動きに抗して、仏教の内なる近代化を準備しつつ、宗教性を復権させようとした過程を生き生きとした筆致で描き出しています。近世思想史研究を決定的に方向づけた丸山眞男についても正面から取り上げ、仏教の視点を入れることで、儒教と国学の政治思想を中心に展開してきた近世思想史の不足を補いました。

この本を「中外日報」は2008年5月27日の読書特集で取り上げ、「著者は儒教的合理主義、世俗的価値観が支配する時代状況の中で、それらに自覚的に対峙しつつ、仏教独自の価値観を明確に思想化した普寂の業績を再評価する。この作業を通じ、著者は丸山の近世思想史を乗り越えて、近世仏教の思想史的位置づけの再考を促す」と紹介しています。

また、東京大学名誉教授で国際日本文化研究センター教授の末木文美士氏は東方の機関誌「東方」2008年24号の書籍紹介で「本書は普寂の思想を中心としながらも、それをより大きな流れの中で考察し、近世仏教がどのような問題意識で動いていたのか、そしてそれが近世思想史の中でどのように位置づけられるのか、さらにはそれが近代にどのようにつながるか、という大きな展望をもって議論が展開していく。近世とは何であり、そして近代とは何なのか。仏教思想の解明がそのような大きな問題につながることを始めて明らかにした点で、本書は研究史上の画期をなすものといって過言でない」と述べています。

参考資料：日本学術振興会賞の概要2P（日本学術振興会リリース抜粋）

この件に関するお問い合わせ、取材のお申し込みは下記までお願いいたします。

---

財団法人東方研究会・東方学院 事務局 佐々木、笛木  
TEL. 03 (3251) 4081 / FAX. 03 (3251) 4082 / E-mail : [gakuin@toho.or.jp](mailto:gakuin@toho.or.jp)  
〒101-0021 東京都千代田区外神田2-17-2 共和ホームズ4階  
ご掲載の折にはお手数ですがご一報くださいますようお願い申し上げます。

---